



(2011～2012年 県内出版物展)

館長からのメッセージ

東日本大震災発生後のボランティアの活躍は、これが人間愛の原点かと思わせた。特に若者が被災地に集結して泥まみれになって働く姿を見ると、今の若者の優しさと力強さを感じさせられた。大人はいつの世も若者を頼りないと批判するが、多くの大人は、大概、他人との比較で優劣を競い合い、優越感の中で生きている感じがする。戦後の物質主義の中で生きてきた者の宿命かも知れない。

さて、このボランティア。私が県庁の社会課に勤務していた時にブレイクした言葉だ。平成7年1月。阪神大震災が発生した時、やはりたくさんの方が救援ボランティアを行った。しかし、これより以前にはボランティアは言葉としても一般化せず、活動実態も対価を得てのものだった。

阪神大震災発生後、県では県研修所体育館で県民からの支援物資を受け、被災地に送り届けることになった。私はこの業務を担当することになった。連日、県民から多種多様の物資が運び込まれ、体育館はパニック状態になった。こうした姿をテレビかで見られたのだろう。最初に県社会福祉協議会が手伝ってくれた。その後、自主的に手助けに来てくれたグループが現れた。確か、そのうち、ひとつは、布の絵本グループのメンバーだったと思う。このときほど、ありがたいと感じた時はなかった。

ボランティアへの感謝・感激を忘れることができず、次の職場で、大石田町を会場にして「北村山地

区ボランティアフェスティバル」を開催した。この時も社会福祉協議会や地域の多くのボランティアグループから協力をいただいた。そして、その後、「ねんりんピック山形」の開催業務を担当したが、山形大会はボランティアで支えられた大会にするという理念を掲げ、県外からの参加団体に贈呈するレイの作成を県内の学校、福祉施設など59団体に依頼した。また、山形駅や空港等での歓迎セレモニーに使用する手づくりの紅花（造花）を婦人団体等から2万本作成していただいた。この計画の実現までに県内を何度も回ったことは言うまでもない。でも、この時あたりから、ボランティアがようやく県内にも定着してきたような気がする。

行政がボランティアを活用する時、ボランティアの資質を問題にする人がいる。しかし、このような人は自らボランティアの経験が無いのか、ボランティアを活用したことが無いのか、どちらかのようだ。ボランティアは過酷な現場でも無償で活動する。他人に頼った行動はしない。ここから自らの生き方について社会に主張しているような気がする。

県立図書館では、まだ、ボランティアを活用していない。図書館は地域に役立つことを目指すべきだと思う。来館して本で知識を得、詳しく知りたいことがあればレファレンスを活用できる。そこでボランティア活動ができれば、まさに、生涯学習の拠点になれるはずである。

(館長 後藤 博)

館長からのメッセージ……………	1	当館の利用状況・郷土資料おすすめ本……………	5
くらしに役立つ情報コーナー紹介……………	2	お知らせ……………	6
県内図書館紹介（中山町立図書館）……………	3	最近のレファレンスから……………	7
平成24年度手づくり絵本コンクール……………	4	よくある質問・交通案内（県立図書館へのアクセス）…	8

新コーナーを設置しました

くらしに役立つ情報コーナー

くらしの道しるべ

コーナーのご案内

くらしに関わる様々な疑問や問題を解決する一助としてもらうため、「くらしに役立つ情報コーナー『くらしの道しるべ』」を設置しました。

コーナーでは、くらしに身近で興味関心の高いテーマを取り上げ、関連する資料200~300冊の展示貸出しと、関係機関が作成するチラシ・パンフレットも提供しています。



第1回テーマ【健康・医療情報】

第1回目の展示は、【健康・医療情報】をテーマに「応援します！健康づくり」のタイトルで平成24年6月から11月まで実施しました。毎日健康で、イキイキとした生活を送るために役立つ情報として、「健康管理」や「食生活と栄養」「健康レシピ本」「たばことアルコール」に関する本を約230冊展示貸出しました。

健康・医療は、老若男女を問わず興味関心が高いテーマで、コーナーでは毎日予想をこえる多くの方々にご利用いただきました。特に「健康管理」に関する本の貸出しが多く、日ごろの健康維持や病気予防についての意識の高さがうかがえました。



第2回テーマ【子育て支援】

第2回目の展示は、【子育て支援】をテーマに11月から平成25年5月まで実施しています。

山形県では、夫婦共働き世帯が多い中、仕事と家庭の両立に大変さを感じている方が多く、また、少子化も進行している現状です。こうした課題に少しでもお役に立てればとの思いからこのテーマを取り上げました。

展示内容は、子育て中の保護者やこれから子育てする方を対象とし、妊娠・出産から子どもの健康・病気、家庭教育など子育て全般に関する本約300冊を展示貸出しています。

中でもおすすめは「働くママへ」の категорияで紹介している本です。働くママの負担を少しでも軽減してもらうため、育児休暇・子育て支援制度の解説本や仕事との両立、家事の時短に役立つ本などを揃えています。

そして… 子育てはパパの協力なしでは成り立ちません。パパにも積極的に子育てに参加していただきたいとの思いを込めて「パパの子育て」の категорияで、育児休暇を通しての子育て奮闘記や、父親の子育ての秘訣を書いた本なども紹介しています。

“子育てするなら山形県” 図書館も皆さんの子育てを応援します!!



こんな感想をいただきました。



★「一つのテーマにいろいろの角度からの本が並んでいて、参考になる本、新しく知った情報などが多数あり大変勉強になりました。」

★「欲しい情報がすぐに見つけられて、とても良かったです。小さい子どもがいるとあちこち探し回る時間がないので…」

などなど

今後も、県民の皆様「役に立つ」情報の提供と、利用しやすいコーナーづくりに努めてまいりますので、是非ご利用ください。ご意見、ご感想もお聞かせください。

また、当館のホームページで展示資料リストを掲載していますので、そちらもご覧ください。

温かい空間ー新しい図書館のカタチー

～中山町立図書館「ほんわ館」～



平成24年4月30日にオープンし、まもなく1周年を迎える中山町立図書館『ほんわ館』。

その名前には、「本を囲んで和ができてほしい」「図書館を中心として人々のつながりの輪が広がってほしい」「ほんわかと温かい気持ちになってほしい」という願いが込められています。

館内中央の【児童書架】は元屋内プールの形状を活かして、緩やかな坂とカーブでつくられています(上左写真)。そして、その中やまわりには温かさの感じられる【読み聞かせコーナー】(上左写真中央)がいくつもあります。

見上げると【空中図書コーナー】(上右写真)。「ほんわ館」の大きな特徴のひとつです。ここで読み聞かせを行うと、その声が館内に心地よく響くこともあるそうです。

「静けさ」ではなく、「適度なざわめきがある雰囲気」を求めているため、このような空間づくりができるのでしょう。

このような雰囲気であるため、親子連れの方の利用が多いのですが、静かに本を読みたい方のために【静読室】が用意されています。

11月に開催した「第1回ほんわ館まつり」では館内でピアノ演奏が行われ、【ブックカフェ】もオープンし、コーヒーを味わいながらゆっくり読書をする時間もつくりました。

来年度開催の1周年記念イベントでもブックカフェをオープンするそうです。

温かい雰囲気と適度なざわめき。ぜひ足を運び、新しいカタチの図書館を感じて「ほんわか」してみたいはかがでしょう。

(取材：企画課 野沢 貴文)

〈アクセス〉



手づくり絵本コンクール

「手づくり絵本コンクール」は、絵本をつくる体験を通して、本の好きな子どもを増やすことを目的に昨年度から実施し2年目となります。

本年度は、「子どもの読書サポート アシード」の加藤氏を講師に、県内4回の事前講習会を開催いたしました。新庄市立図書館・市立米沢図書館のご協力を得て各館の講座室等を会場としたことから、参考資料を容易に閲覧でき、講師のご熱心な指導と相まって、充実した講習会となりました。



作品の募集期間は7月15日～9月15日でしたが、幼児～小学3年生の部35作品、小学4年生～中学3年生の部55作品、計90作品の応募を得ることができました。

選考は、昨年と同様に、赤木かん子氏・富樫彰三氏・長谷部恵美子氏・横山和江氏の4名の有識者を委員にお迎えして10月6日(土)に行ったところ、

【平成24年度受賞作品】



最優秀賞	なつのやさいでかおをつくろう	鈴木 興世
優秀賞	はじめてできたさか上がり	後藤 礼
	うちのねこ	荒井 雪乃
佳作	かりんちゃんのかきごおり	柴田 紗瑛
	カメさんたちのたからさがし	加藤 明日香
	がくねんホールのでんしゃ	足田 きらり

応募作品の質が高く選考が難航したことから、終了時刻を延長することとなりました。

今年度は、当コンクールの周知を図る試みとして、①最優秀作品各ページのパネル ②写真複写した優秀作品を作成し、11月27日(火)～12月9日(日)会場を遊学館入り口ギャラリーとして展示し、多くの入館者に御覧いただきました。



表彰式は、平成25年2月5日、山形市のビッグウイングにおいて開催された「山形県子ども読書活動推進フォーラム」において、挙行いたしました。

なお、最優秀作品2作品は、製本して本館および市町立図書館および町村立中央公民館図書室に配備しましたので、是非ご覧ください。

(運営企画専門員 片桐 利章)



最優秀賞	オレは黒猫	阿部 友美
優秀賞	クラゲ	鍋谷 真央
	アポロのおねがい	鍋谷 真菜
佳作	なみだのあとには	齋藤 喜久瑛
	スーパーたまごくん	星野 佳乃葉
	ボクはカイコ	加科 希

当館の利用状況

図書館の利用状況

(各年4月～12月)

区 分	開館日数 (日)	入館者数 (人)		新規登録者数 (人)		館外貸出資料数 (冊)	
		総数	1日平均	総数	1日平均	総数	1日平均
22年	222	169,382	763	2,067	9.3	138,955	625.9
23年	220	156,609	712	2,040	9.3	133,842	608.4
24年	221	160,144	725	1,805	8.2	137,568	622.5

蔵書の状況

区 分	1月～12月購入・寄贈冊数				12月31日現在蔵書冊数			
	図 書	逐次刊行物	視聴覚	合 計	図 書	逐次刊行物	視聴覚	合 計
22年	18,181	6,261	291	24,733	590,606	142,250	10,441	743,297
23年	18,708	5,898	151	24,757	609,276	134,025	10,589	753,890
24年	15,798	6,029	412	22,239	624,931	138,148	10,985	774,064

郷土資料おすすめ本

県立図書館では2階フロアに、郷土資料を多数展示、所蔵しております。是非お手にとってご覧ください。数ある資料の中で今回紹介する本のテーマは【料理】。昨年は郷土料理を取り上げた本や県人が書いたレシピ集が多数出版され、話題になりました。特色あふれる料理の数々、是非作って味わってみてください。

書名 (著者・編者)	内容紹介
食の記憶 あずだす (村山市・郷土料理を楽しむ会)	村山の郷土料理を方言で紹介。達人の知恵袋、食のエピソード、郷土料理百選番付など、読み応えある一冊。
おわえなえ (米沢商工会議所女性会)	母から娘へ、そして孫へ……受け継がれる米沢の郷土料理レシピ集。こうちゃんの米沢簡単料理レシピも掲載。
田んぼの味 (鶴岡食文化創造都市推進協議会)	お米が主役の郷土料理、洋食、個性豊かなおにぎり、スイーツまで計24レシピを掲載。
おかずに美味しい田舎ごはん※ (新関さとみ)	芋煮に始まる山形の味のレシピ等、おかず、ごはん、デザートまで、これ一冊で田舎ごはんが完成。
米、くうべ※ (樋口順子)	旬の食材、素材の持ち味を活かした、お米をおいしく食べるための、簡単お米レシピ集。
山辺高等学校レシピ集 (山辺高校食物科)	山辺高校食物科の生徒たちが生み出した、アイデアあふれる創作料理を紹介。
置賜発電子レンジらくらく献立集 (置賜保健所保健企画課)	忙しい人にもうれしい、材料をそろえて混ぜてチンするだけ、気軽に作れる簡単献立集。

その他おなじみ相田幸二さん、奥田政行さんのレシピ集 (※) も好評貸出中です。

※ の資料は1階フロアにあります。

お知らせ

平成25年度の主な企画展

●春のこども読書週間企画展

「本をよんで、よーいどん！」

～つながる未来ひろがる夢～

期日：平成25年4月23日(火)～5月18日(土)

場所：山形県立図書館 1階フロア

内容：春は、夢と希望で胸がいっぱいになる季節です。そして、いろいろな「つながり」が始まるスタートの時でもあります。

学校の先生やともだち、地域の人々、未来の夢…。

どんどん広がっていく「つながり」の世界を、本の中で体験してみませんか。

新生活がより楽しくなるような本を展示し紹介します。

●秋の読書週間企画展

「2012～2013 県内出版物展」

期日：平成25年10月

場所：山形県立図書館 1階フロア

内容：前年10月から1年間に発行された山形県関連の図書と雑誌を展示し紹介します。

★館内展示コーナー★

館内では、下記のコーナーでも常時展示を行っていますので、是非ご利用ください。

- ・くらしに役立つ情報コーナー『くらしの道しるべ』
- ・『ビジネス支援図書展示』コーナー
- ・『ヤングアダルトおすすめ本』コーナー

全国公共図書館研究集会

平成25年度全国公共図書館研究集会（サービス部門、総合・経営部門）が、山形県で行われることが決定しました。

同研究集会は、本県はもとより全国から図書館職員をお迎えし、先進図書館における取り組みの発表や意見交換を行うなど、図書館サービスや経営の意識向上を図ることを目的として開催されるものです。

会場は「読書シティ宣言」で注目される村山市の甌葉プラザで、平成25年10月24～25日の2日間開催予定です。

ヤングアダルト向け
新着ガイドブック

GATE★BOOK

『GATE★BOOK』は、

「本と利用者をつなぐ扉」

「本による興味への扉」

「本が開く未来への扉」をコンセプトとし、10代の若者向けに話題の本や最新のオススメ本を中心に紹介しているブックリストです。

ブックリストは毎月発行し、“ヤングアダルトおすすめ本コーナー”で紹介している本と一緒に設置しています。

また、当館ホームページの「展示資料リスト」からバックナンバーも見る事ができます。学校での“朝読”の本選びに活用してみてもいいですか。



便利なサービス

県立図書館では、直接来館できない方も県立図書館の資料をご利用いただけるサービスや、借りたい本を簡単に探すことができるサービスなどを提供しています。詳しくは県立図書館のホームページまたは利用案内等をご覧ください。

●相互貸借サービス

地元の市町村立図書館・公民館図書室に借りたい資料がないとき、地元の図書館（室）を通じて県立図書館の資料を借りることができます。地元の図書館（室）に申し込んでください。

また、他の図書館の資料を県立図書館に取り寄せることも可能です。カウンターにお申込みください。

●インターネット予約サービス

県立図書館の資料を、ご自宅のパソコンや携帯電話から県立図書館のホームページを通じて予約し、県立図書館や地元の図書館（室）で受取・返却することができます。（利用登録とパスワードの取得が必要です。）

●遠隔地返却サービス

県立図書館に来館して借りた資料を、地元の図書館（室）に返却することができます。資料を借りる際に、県立図書館のカウンターに申し込んでください。

●調査・相談（レファレンス）サービス

県立図書館の職員が、調べものや研究などのお手伝いをするサービスです。郵便、電話、FAX、ホームページでも受け付けています。

●資料の複写サービス（有料）

県立図書館の資料を著作権法の範囲内で複写（有料）するサービスです。郵便、FAX、ホームページでも受け付けています。

所蔵資料の横断検索

県立図書館のホームページにある「横断検索」から、山形県内の市町村立図書館・公民館図書室や大学が所蔵する資料を簡単に検索することができます。借りたい本を探すのに便利です。

最近のレファレンスから

Q1 江戸時代にも「納豆汁」はあったのでしょうか。

A1 はい、ありました。江戸時代の多くの料理書に「納豆汁」のつくりかたが掲載されています。

たとえば、江戸時代初期の代表的な料理書『料理物語』（1643年）には、「納豆汁味噌を漉してだしを加える。青菜類の塩漬け、豆腐を細かく切るのがいい。青菜類の塩漬けはよく洗い、出す時に入れる。納豆はだしでよく摺りのべるとよい。吸口に辛子、柚子、にんにく」と詳しく記載されています。

また、江戸後期の国学者 小山田 与清による随筆『松屋筆記』（1815～1846年頃）にも、「納豆をすり鉢で摺り、出汁でのばしして味噌汁に加え、豆腐と青菜を細かに切り、水辛子・柚子を添える」とあります。

同様の内容が、『黒白精味集』（1746年）や『料理早指南 四編』（1804年）にも記載されているようです。

これらのことから、当時も「納豆汁」が広く親しまれていたことがうかがえます。

参考文献：『たべもの起源事典』『図説江戸料理事典』『再現江戸惣菜事典』『日本史大事典』

Q2 紅花の生産量の推移が知りたい。最盛期にはどれくらいの生産量があったのでしょうか。

A2 古来、紅花は染色や化粧品に必要なものとして、栽培されてきましたが、本県での紅花の生産量（干花）の推移は次のとおりです。

江戸前期の元禄5（1692）年の生産量は3,038kg。この3年後の元禄8（1695）年には72,788kgまで増加します。

さらに、生産量は寛政期（1789～1801年）を境に急速に上昇し、寛政8（1796）年には135,000kgに達し、寛政12（1800）年には157,500kgと、ここで最盛期を迎えます。

これは、上方（京都、大坂など）で需要が増大したことや生産が奨励されたこと、これらに伴い生産技術も進歩し、農民たちの生産意欲も高まったことなどによるものとされています。

しかしながら、その後、生産量は減少を続け、明治12（1879）年には1,470kgまで減少します。

昭和に入ると、昭和40年から化粧品メーカーとの契約栽培が始まったこともあり、昭和48年度（1973）には3,350kgまで増加しますが、契約の解除等により、平成4年の生産量は270kgとなっています。

参考文献：『日本の紅花』『最上紅花史の研究 改訂版』『フロラ山形38号』『山形県の園芸特産 平成5年』

よくある質問

Q1 はじめて本を借りるにはどうしたらいいですか？何か必要なものがありますか？

A1 ご本人が来館され、「利用カード申込書」を記入し、県内に居住または通勤・通学していることを確認できるもの（免許証、健康保険証、学生証など）を提示してお申込みください。なお、郵送でもお申込みできます。詳しくは当館ホームページをご覧ください。

Q2 利用カードは何歳から作ることができますか？

A2 0歳から作ることができます。小学生以下の方は、保護者の同意が必要です。また、お申込みをした保護者の確認書類により本人確認とすることができます。

Q3 何冊借りることができますか？

A3 図書の貸出は、6冊まで3週間以内です。なお視聴覚資料（DVD・ビデオ・CDなど）の貸出は、3点まで1週間以内です。（図書・視聴覚資料の合計で6点以内となります。）

Q4 返却期限になったが、まだ読み終わっていない図書があります。引き続き借りることはできますか？

A4 一度返却していただいたうえ、他の方の予約がない場合に、再度借りることができます。なお、電話での期限延長はお受けしていません。

Q5 ボランティアで子どもたちに紙芝居の読み聞かせをするため、紙芝居台を借りたいのですが。

A5 紙芝居台は5台あり、館外への貸出しができます。2階調査カウンターにお申込みください。

Q6 ポスターやチラシを図書館で貼ったり、置いたりしてもらえますか？

A6 図書館の掲示スペースなどの都合により、県の関係機関が発行したものを中心に掲示しております。なお、お受けしたポスターやチラシの取扱いは図書館に一任させていただきます。あらかじめご了承ください。

交通案内（県立図書館へのアクセス）

バス：山形駅前から

- ・『沼の辺行き』乗車。
遊学館前下車、すぐ。
- ・『市役所前経由路線』乗車。
市役所前下車、徒歩約6分。

タクシー：山形駅前から約10分。

車の方：・県営駐車場をご利用ください。

- ・図書館をご利用の方は最長2時間まで無料です。
- ・おいでの際とお帰りの際の2回、1階正面玄関左側の遊学館総合受付に駐車券をお出してください。



■山形県立図書館のご案内

〒990-0041 山形市緑町1-2-36

TEL 023-631-2523 / FAX 023-625-6520

ホームページ <http://www.lib.pref.yamagata.jp/>

開館時間 9:00~19:00

休館日 月曜日、毎月の第3日曜日、年末年始、特別整理期間

携帯サイトは
こちら

